

2022 年 5 月 28 日(土) 社会福祉センター
講 師：富 安 兆 子 氏
(高齢社会をよくする北九州女性の会代表)

あなたの人生と S D G s

第 3 回 「With コロナ時代 改めて問われる SDGs の意味と実践」

はじめに S D G s とは

より良い社会の実現を目指す世界共通の目標で、2015 年の国連のサミットで全ての国連加盟国が合意した「持続可能な開発のための 2030 年アジェンダ」の中に掲げられた。2030 年を達成年度とし、17 と 169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」を誓っている。

このままでは人類の存続がむずかしいということから全ての国連加盟国が賛成し、世界が共通して取り組むこと、持続可能な開発目標であること、誰一人取り残さないことをうたっている点で大きな意味がある。



1) COVID-19 出現の意味

人類が築いてきた文明社会のありようが自然破壊につながった、私たちは自然の一つであるが、自然から遠ざかった生活をするようになった。COVID-19 は人間が近づきすぎそのしっぺ返し？の結果として発生したともいえる。

2) 人間社会の変遷

狩猟・採集時代(自然から贈り物によって)⇒農業の発明 農耕の時代(第一次)⇒商業の発達と大航海時代(第 2 次)欲望の噴出⇒工業の発達と産業革命(技術革新 エジソン／ベル) (動力の源泉の移動 生物から無生物へ) ⇒情報化社会ーIT 革命とデジタル化へと変遷してきた。最古は自然の贈り物によって生きてきが、技術革新や産業革命により動力の源泉の移動により、人間社会は、生物から無生物へとシフトしていった。特にデジタル化は社会構造に拡散と収縮をもたらした。動物と植物はどちらが偉いかというと生命の仕組みからして、植物は循環して、動きながらバランスをとっている。自分だけ良ければという生き方は行き詰る。一つの国だけが良ければというのもよくない。バランスを取りながらやっていくことが大事である。

3) 現在社会の特徴

格差の拡大と社会の分断、孤独感・孤立感と増大、自信喪失と自信過剰の二極化などがあげられる。劣等感がもたらす被害者意識と裏腹な強すぎる正義感も特徴の一つであり、強すぎる正義感が一般化し人を責めるようになった。

4) 過去のいくつかの事件から感じられること

秋葉原事件、相模原事件、大阪ビル放火殺人事件は、拡大自殺の可能性(見ず知らずの人を巻き込んでの自己破壊の衝動)を含んでいる事件といえるのでは…。

5) どのような社会にしたいのか？

- ・弱さを受容できるゆとりある社会
 - ・生きることの手ごたえを確認できる社会
 - ・自分だけのためではなく危機にある「誰か」のために力を尽くせる社会
- このような社会を目指すために力を尽くす取り組みの材料はたくさんある。

6) 本年度 学習テーマ「SDG s と私たちの暮らし」

今年度のテーマ「SDG s と私たちの暮らし」は食料問題の対応(SDG s 目標2・目標3)になる。学習会は食糧問題を自分の生活に置き換えて考える機会となり、これからの社会の形成に役立つ。

終わりに

今日お集まりになった皆さんに贈る言葉

マハトマ・ガンジー

(英国統治時代にインドで非暴力・不服従を貫いた国民的指導者)の言葉

『明日死ぬか如く生き、永遠に生きるかの如く学べ』

今なぜ、SDG s の取り組みが喫緊の課題であるのかを自然界での人間の立ち位置のあるべき姿に触れながら、現在の課題につなげて講演していただいた。わかりやすかったがゆえに今の自分の生活のありように危機感を感じた。講師から贈っていただいた言葉のように“永遠に生きるが如く学べ”がこれから始まるが、地球の未来のために学んだことを行動につなげる覚悟が決まる機会ともなった。